



## あらゆる血液浄化療法を行う

当部では腎不全患者に対する腎代替療法はもとより、各科診療における種々の疾患に対し、診療支援および各種血液浄化療法を行っている。具体的には、下記のような業務に力を入れている。

- ①各種血液浄化療法：血液透析、血液ろ過透析、アフェレシス（血漿交換、二重膜ろ過血漿交換、免疫吸着、LDL吸着、白血球・顆粒球除去など）の施行。
- ②新規透析導入と紹介された透析患者や非透析慢性腎不全患者の検査・処置・手術における各診療科への血液浄化療法、輸液管理、薬剤投与および食事療法などに関する支援。
- ③主に他科で発生する急性腎障害患者の内科的治療および急性血液浄化に関する支援。
- ④腹膜透析外来の実施。
- ⑤血液透析用バスキュラーアクセスの作成・再建および修復。
- ⑥慢性腎臓病患者への透析導入前からの患者紹介と腎臓病教室の実施。

## 業務内容の特徴と実績

### 各業務内容の特徴

#### ①血液浄化療法

血液浄化療法用ベッドは22床である。2013年の血液透析患者数は289人で、血液透析件数は4,284件と昨年とほぼ同様である。

#### ②透析導入

2013年の新規導入患者数は69人（血液透析64人、腹膜透析5人）であった。急性腎障害からの導入は12例であった。なお、血液透析については、導入後、居住地近くの施設に転院していただくこととなる。

#### ③腹膜透析外来

2013年末で40人の腹膜透析患者が、月1～2回の外来通院中（診察室は透析室あるいは外来2G）。

#### ④アフェレシス治療

血漿交換療法、二重膜ろ過血漿交換や吸着療法、白血球・顆粒球除去および、輸血部主導の末梢血幹細胞採取などが行われている。稀少疾患の場合、保険診療の枠外で治療を行うこともある。腹水ろ過濃縮再静注法にも対応している。

#### ⑤透析用バスキュラーアクセス（VA）

2013年における透析用VAの作成数は77件であった。人工血管を用いたVA作成には心臓血管外科と共同で行う。カテーテルによるVA修復は、循環器内科との共同作業で2013年に37件実施した。

#### ⑥院内連携

週1回、透析カンファレンスを行い、他科入院中の患者主治医との連携や、部内の意思統一をはかっている。腎不全患者の輸液・薬剤・食事療法などのコンサルトにも対応している。医療安全部・医療器材部と共同で、院内の血漿交換や持続的血液ろ過透析の技術講習会も行った。また、透析用バスキュラーアクセス・カテーテル取り扱い方法・CHDFマニュアルおよび血漿交換マニュアルの改訂を行うと共に医療情報部と共同でCHDF管理システムを開発した。

#### ⑦慢性腎臓病（保存期）への治療介入

腎臓病教室を開催し、腎疾患の基礎知識、食事・生活指導、腎代替療法、社会福祉制度の説明を多職種で担当している。食事療法については、季節毎に異なる話題が提供され、人気が高い。2013年度からは、糖尿病透析予防指導管理が糖尿病・栄養内科主導で実施されており、当部より看護師1名も参加している。

#### ⑧その他

当部は日本腎臓学会・日本透析医学会・日本アフェレシス学会・日本急性血液浄化学会・日本腹膜透析医学会の認定施設である。また、日本看護協会認定透析認定看護師1名が勤務しており、透析療法従事職員研修施設でもある。

## 高度先進医療等への貢献

### 高度先進医療に対応する研究開発体制を整備

京大病院では、臓器移植医療をはじめとした「橋渡し医療」および先進医療や高度医療などの新しい治療法が開発されてきている。特に外科的治療の場合には、周術期にさまざまな合併疾患が生じることがあり、それらに対し血液ろ過透析、血漿交換、血液吸着など複数の血液浄化法を組み合わせて治療する頻度が高くなっている。今後新たな医療の進歩にとまって、それに対処できるよう研究開発体制の整備もしている。

主な治療内容と件数

	2012年1月～12月	2013年1月～12月
血液透析	4119	4282
持続的血液ろ過透析	1141	833
単純血漿交換	454(199)	154(121)
二重ろ過血漿交換	22	27
免疫吸着	21	0
ビリルビン吸着	8	9
LDL吸着	8	26
エンドトキシン吸着	22(2)	35(2)
血球成分吸着(CAP)	56	95
末梢血単核球採取	66	41
腹水ろ過濃縮	19	35
腎臓病教室参加者数	191(2012年度)	259(2013年)
内シャント増設術	78(2012年度)	77(2013年)
シャントPTA	45(2012年度)	37(2013年)

( )内は透析室での実施件数